平成19年度四手井綱英記念賞　選考理由書

授賞対象論文

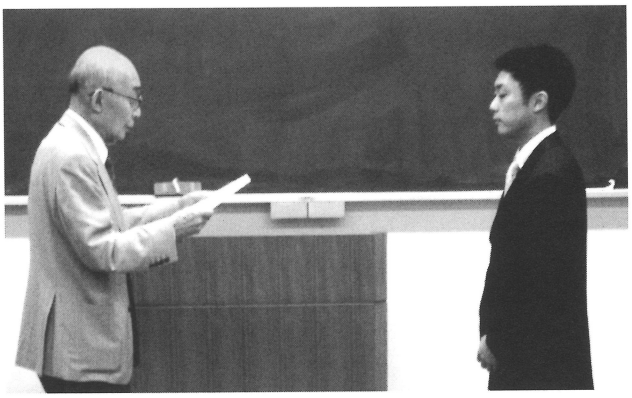
鈴木誉士・浅香智也・中川雅博. 2006

琵琶湖につながる護岸された農業用水路におけるスナヤツメ *Lethenteron reissneri* 個体数の経月および経年変動

選考理由

一般に，コンクリート護岸された用水路の水生生物の多様性は著しく低い。著者らは，琵琶湖につながる１つの農業用水路に生息する魚類について７年間に渡り定期的な人口学的調査を実施した。その結果，個体数の減少が懸念されていたスナヤツメが長期間に渡りみられかつ増加傾向にありこの用水路に定着していること，この他20種以上もの多くの在来魚種も，長年に渡り安定して生息していることを確認した。

この用水路はコンクリート護岸でありながら，そこには幅が細い水路部と幅が広く，かつ底が深く砂泥が堆積している「枡部」（ますぶ）が存在する特有の形状をしている。止水域となる枡部は，多くの魚にとり出水時の避難場所に，さらにその堆積物がスナヤツメのアンモシーテス幼生にとり貴重な生息場所になるなど生息環境の多様性を高めており，これが本用水路の魚類の多様性をもたらしていると著者らは考えている。



千地会長より四手井賞を授与される鈴木氏
（2007年６月24日．於大阪市立自然史博物館）

さらに，著者らは琵琶湖内湖におけるワタカはじめコイ科魚類の生態調査など淡水魚の諸研究を真摯に行い，その成果をKONC会誌に公表するなど，琵琶湖周辺域での長期間に渡る淡水魚調査は，今後の淡水魚の保全にとり貴重な基礎資料となるものである。

以上のことから，本誌28巻１号に掲載された論文「琵琶湖につながる護岸された農業用水路におけるスナヤツメ *Lethenteron reissneri* 個体数の経月および経年変動」に対し，2007年度四手井綱英記念賞を授与する。

（関西自然保護機構理事会　記）